

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和3年度第3回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和4年1月24日(月) 午後3時～5時10分
開催場所	市役所 中会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治、鈴木正敏、松尾寛子（リモート） 閑念勝代、春増勝利
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	—
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 笹倉邦好 教育部長 森脇達也 学校教育課教育研究室主幹兼室長 衣川正昭 幼保連携課長 正木万貴子 幼保連携課主査 山下秀華 幼保連携課（幼児教育センター）藤原幸恵 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳 幼保連携課（幼児教育センター）鍵田梓
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 第2回視察訪問について (2) 意見交換会を受けて今後の方向性について (3) 今年度事業の評価報告について (4) その他
会議の記録（概要）	
発言者	内 容
事務局	1 開会 委員の出席は5名（内3名はリモート）
教育長	2 あいさつ
事務局	（資料確認） ここからの進行は、委員長にお願いいたします。
委員長	3 協議事項

事務局	<p>(1) 第2回視察訪問について 事務局から説明をお願いします。</p> <p>・資料1 令和3年度自己評価資料（各園）次年度に向けての取組の方策 各園の訪問の様子をパワーポイントで共有。</p>
各委員	<p>～各園の感想・意見 保育内容～</p> <p>全学年担任が揃って面談をできたので、研修的な意味合いを含めて、参観で感じた園の実態や課題に応じた動画を活用し、隣同士で意見を出し合いながらミニレクチャーを行った。改めて保育のベースを丁寧に伝え、園全体で共通理解を図ることができた。</p> <p>自然環境を十分に生かして遊び、非常に豊かな経験を積まれていた。5歳児は自分達で材料を揃え、考えながら進めていて、思考力の芽生えを育み、5歳児らしい保育が行われていた。相談もグループでできてそれをまとめる保育者の力もついてきており、全体的に質の高さが見えた。さらに10の姿につなげる分析について伝えた。</p> <p>保育環境を工夫するとともに、子どもたちが主体的に遊べることもかなり意識されて保育されているのが分かった。伸びてきたと思う。</p> <p>園庭の環境を整えたいという希望に応じ、テラスや砂場の環境等を助言した。制作を得意とされているが、今後は外遊びも豊かにと 思う。これまでの子どもたちの経験を大切にする保育に加えて、子どもの興味や関心・わくわくとした楽しさを視点にした保育も意識できるよう伝えた。</p> <p>保育経験の浅い保育者も試行錯誤しながら子どもの楽しさを大切に という視点をきちんと持って保育をされているのを十分に感じた ので今後にも期待がもてた。</p> <p>嫌な言葉を使う子やトラブルを起こしやすい子に対して、風邪の 対処法の西洋医学と漢方に例えて助言した。直接注意をして改善し ないのであれば、漢方のように普段のクラス作りで子どもに肯定的</p>

な言葉をかけていく支援を提案した。

年齢ごとの保育だけでなく、4・5歳児の交流があると、特に4歳児が変わってくるのではないかと助言した。

～ 第1回視察訪問の助言から～

ドキュメンテーションに熱心な園で、前回伝えた5歳児が作るドキュメンテーションの提案を実践していて、素晴らしいと思った。全体的にレベルが高く、市内、市外でも通用する保育だと感じた。

助言や提案に対して一度やってみたり考えたりした結果や過程を訪問で聞くことができたが、保育室の配置、コンソートの位置やしきりの家具が動かさない、園庭の環境の相談等、現場の悩みが多かった。前回助言した保育室については、保育者が相談・考えを出し合って、パーテーションを半分程外して行き来できるような改善が見られた。

～自己評価の記述について～

自己評価を丁寧に記述し、課題や自分がどう頑張っていけばいいかを見通しをもって考えられるようになってきたと思う。改善のサイクルが回り始めていると感じた。

書かれている内容を見ると、☆やチャレンジしたいことへの記述が少なかったように思う。

資料を見ると、細かく自分のクラスのことを認識し、改善に向けて考えていることが伺えた。改善のサイクルは回り始めているので今後は「もっとこういう保育をしたい」と出し合えるような職員の集団意識を高める園内研修が望まれる。

～全体の感想～

第1回と第2回の訪問を比較すると、助言した内容を自分なりに発展させたり、環境の作り方を工夫したり、これまでの積み重ねが見られる3年目で、徐々に保育の質としても向上していると思う。

訪問したすべての園で、園長をはじめ保育者が子ども達のことを

	<p>思い保育を考えたり、遊びの楽しさから色々な学びに気づけたりできるように日々努力されているのが分かった。</p> <p>1回目の訪問で助言した内容を、2回目の訪問ではどの園も対応しているということに、年2回実施の意味・意義を感じた。また、ドキュメンテーションの作成や手作りおもちゃ等の変化や工夫が多く見られたのが驚きだった。</p> <p>～特別支援について～</p> <p>集団生活の中での困難さが保護者に伝わりにくいことと、家庭への配慮や支援が必要な園児に対する支援の難しさに現場は一番悩んでいる。</p> <p>重度障害の園児を受け入れている園に対しては、具体的な障害の知識や理解、園と療育機関や児童発達支援事業（福祉サービス）併用時の情報共有や利用量の調整を含む連携の仕方、今後の進路や見通しも含めて助言をした。</p> <p>サポートファイルを預かっている園に関しては、活用方法や記入の仕方の相談が増えている。記入に慣れた保育者が一人でも増えると少しずつ変わっていくと思う。</p> <p>3年間の視察訪問を通して、今は困っていなくても将来的に困るのではと予想される幼児に対して、今後を見据えた支援の視点を保育者に伝えることができた。大きくなってからでなく幼児期の段階で伝えることができるメリットを感じる。今年度は視察訪問だけでなく、別途各園の希望相談の機会にも応じることができたので、より丁寧に関わることができた。</p>
<p>委員</p>	<p>～小学校との接続や連携について～</p> <p>各園で家庭的配慮が必要な保護者との連携を工夫され苦勞も感じられた。園の配慮や工夫をしっかりと小学校へつないでいかなければならないと思った。</p> <p>各園での子ども達が自分のことを自分でできるため支援や、待つ保育姿勢にすごく学ばされた。質の向上のこのような園での取組をもっと小学校教諭が知るべきだと感じた。例えば小学校教諭や管理職がインターンシップで園の仕事体験をすれば、さらに発展的に広がるのではないかと希望がもてる訪問だった。</p>

事務局	<p>小学校の接続という観点で5歳児を中心に参観した。朝の会や当番活動等すべて小学校と同じようにする必要はないが、保育者の中にも小学校への接続への意識が感じられた。そういう場面を小学校教諭も参観することで、小学校の4月当初のスタートにつながるのではないかと思った。</p> <p>音楽会の練習では、子ども達が自主的に楽器のパートに分かれたり、5歳児なりに目的意識をもって行動ができたりするよう保育者が的確な支援をしていた。しかし小学校へ行けば「1年生はまだ何もできない」となる。すでにこういった経験を積み重ねて小学校に入学することを小学校が理解し、学ばなければならないと感じた。次年度以降の小学校教諭の校区園参観も表面的で終わるのではなく何を参観するのか目的がもてるようにしたいと思う。</p>
委員長	<p>改めて3年前と比べてみると、どの委員も感じているように、質が向上し、質の改善のサイクルが回ってきているということが感じられました。この取組を小学校へも伝え、市内全域に理解を図ることで、今後さらに幼児教育の質の向上とともに小学校との接続が、この委員会での取組もつながっていくと思いました。</p> <p>(2) 意見交換会を受けて今後の方向性について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2 12/20意見交換会議事録、事前意見まとめ ・資料3 令和4年度視察訪問希望調査(案)
委員長	<p>資料2の12月20日意見交換会の議事録ですが、園長先生方の思いや意見を聞いて良かったと感じています。その意見をもとに作成した資料3の1保育内容と特別支援内容の日程、2-(1)訪問の時間、2-(2)開始時間・終了時間について、事務局の提案で大丈夫でしょうか。</p>
各委員	<p>了承します。</p>
委員	<p>特別支援の訪問は、園に負担のない形での相談で園のニーズに合ったものと考えています。例えば、忙しい時期なら園が必要とされない場合もあるでしょうし、園の希望を聞き、他のお子さんに支障</p>

	<p>がない形で行いたいです。訪問時に困り感が出ない場合は、映像だけでも分かることがありますし、実際に参観した方がいい場合もあり状況によって色々ですが、一番は園の先生方の話を聞かせてもらいたいです。</p>
委員長	<p>特別支援の希望時間は、③の1日（午前参観・午後面談）が従来のものであれば、③を前にもってきて①にしたらとどうでしょう。これまで通りのやり方のイメージがあり、それを少し変化させると午前中、また午後から面談のみでも可能という方が、各園は分かりやすいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>その通り修正します。</p>
委員長	<p>続いて資料4の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>・資料4 自己評価資料変更(案)</p>
委員長	<p>様式がエクセルになり、並び順を変更して2教育課程の編成から9関係者評価の取り組みまでに関しては、これまでの前期・後期の2回記入から、後期視察訪問時に記入する形にしてはどうかという提案です。</p>
委員	<p>少しでも簡略化した方がいいので、提案通りでいいと考えます。</p>
委員	<p>私も同意見ですが1点加えるとすると、園には2から9も理解した上で前期に臨んでいただけるように、記入は後期ですが目通しはしてもらいたいです。いかがでしょうか。</p>
委員長	<p>年度当初に内容を念頭にとというのは必要です。</p>
事務局	<p>そのことも踏まえて園に伝えます。</p>
委員長	<p>特別支援や保幼小の連携ではいかがでしょうか。</p>
委員	<p>特別支援はこれでいいと思います。</p>

委 員	保幼小の連携もこれでいいと思います。
委員長	7保幼小の連携の名称が少し気になります。今や保育園はない状況でいかがでしょう。
委 員	小学校では「園小の連携」と言っています。こども園、幼稚園の「園」と小学校で園小の連携です。
委員長	「園小の連携」を市内共通で使えると思います。その他、何かありますか。
事務局	担任からの保育内容、特別支援の質問についてご意見をいただきたいです。
委 員	保育に対する質問が支援を要する子への内容で、相談・助言はしましたが、特別支援担当の委員が自分と違った助言をされていたら現場は混乱するのではと思うことがありました。
事務局	保育内容の質問に具体的な項目を作り、特別支援とは区別してきたのですが、それでも今一番困っていることを担任は記入されたと思います。様式は変えない方がいいので注意事項として伝えます。
委員長	特別支援の様式はいかがですか。
委 員	詳しい現状の記入があるといいのですが、サポートファイルにも情報があり、今はこのままの様式でいいと思います。園は、個人の特性に応じた手立てとともに、集団生活の中での手立ても必要とされています。個人として対応して欲しいことと、集団の中で対応できることは何かというような助言も行っています。やはり、まずは担任の話聞く時間の確保をお願いしたい。
委員長	今のことを踏まえて事務局から各園に説明をお願いします。 資料はありませんが、各園独自の取組について、他市での事例やアイデア等はいかがでしょうか。
委 員	園の個性を自由に出せる場があるといいかもしれません。特別な

委員	<p>ものではなく園の特色を自由にプラスして、あってもなくてもいいという感じで余裕があると新たな視点が出るかもしれません。</p> <p>確かに独自の取組を頑張っている園は、アピールしたいかもしれないです。しかし、様式に組み込むと全園が記入しないといけないとなりますので、別紙でという形で追加してもいいし、従来のままでもよいとしてはどうでしょうか。</p>
委員長	<p>少なくとも幼稚園でいう学校園関係者評価では、自分たちで自己評価や学校評価を行い、関係者評価を踏まえて次年度に向けての重点目標や重点的な課題を設定していくことが求められています。</p> <p>そしてそれを踏まえて「自園ではどうやって新年度やっていこうか」とか「ここをもっと力入れていこう」というように、自園独自の課題設定をして、目標設定をしてという営みがまわっていくところが、もともと幼稚園を含めての学校教育での評価のありかただと思いますので、少しその視点を認定こども園に入れると、それぞれの園でもし新年度に自分の園として、「何か目標設定されたり、こういうことを園のテーマとして取り組んでいこうということはあるですか」ということについての自由記述を1枚程度で書けるようにする別紙の様式があってもいいと思います。</p>
委員	<p>あまり多くするとプレッシャーになる可能性もありますので、箇条書きでも簡単でもいいので自由に書ける範囲でいいと思います。</p>
委員長	<p>例えば、「今年はこのことを意識して取り組もうと思っている」「ごっこ遊び・園庭遊びをテーマに充実したい」「園の研究テーマ」等園の考えたテーマについて、視察訪問でコメントすると思います。</p>
事務局	<p>(3)今年度事業の評価報告について 事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料5 令和3年度報告書(案)作成の流れ ・資料6 三木市目標達成計画(参考)
委員長	<p>報告書(案)の特別支援は1園ごとの記入ではなく総括的に記入</p>

	<p>する、保育内容は記入する視点やポイント・字数等、事務局の提案がありますが、意見ををお願いします。</p>
委員	<p>事務局の提案の通りでいいと思います。</p>
委員長	<p>特別支援が全体記述というのは、市として分かりやすくいいと思います。その一方で、園小の連携については、小学校長代表委員が今年度からの引き継ぎで初年度との比較が書面上でしか考えようがないので、事務局で情報提供等が必要だと思います。</p>
委員	<p>事務局と連携しながら記入します。</p>
委員長	<p>それ以外は幼児教育センターで記入し、委員が確認ということでお願いします。 次に資料6について、もう少し詳しく教えてください。</p>
委員	<p>三木市の状況ですが、目標達成計画という名称で質の向上が評価から少し離れつつあり、主体的に園で良くしていこうという雰囲気が出てきたので名称や内容を少しずつ変えていきました。そこにはきちんとした説明や雰囲気がないとなかなか難しいので、今は主体的に質を向上したいという気持ちや園ごとの取組への支援を大切にしながら、徐々に園主体の評価の在り方や手順等を園と一緒に検討していくのがいいのではと考えます。三木市も園長会や職員研修等を通して、少しずつの歩みで培ってきました。</p>
委員長	<p>三木市の様式1というのは、西脇市でいう視察訪問の為の資料という意味づけでしょうか。</p>
委員	<p>そうです。視察訪問1回目はねらい、2回目に頑張った所を記入し、それを外部評価者が見てまとめを書くという手順です。</p>
委員長	<p>今の西脇市に置き換えると視察訪問の資料で○とか☆を書いていく辺りが、三木市の目標達成計画の様式になってくるということですね。</p>
委員	<p>はいそうです。</p>

委員長	教育・保育目標、良いところ自慢、ここを改善等、自園で自己認識をもてるようなことを三木市でしているということですか。
委員	そうです。自己評価でアピールしたい内容を入れられるというのがメリットだと思います。ただ、書類の方の半分は評価機関がしますので、評価委員としては、西脇市のように保育内容についてそんなに細かくは見えていないです。
委員長	事務局としては、徐々にシフトしていけるように次の3年のクールを考えていますか。活用法やアイデア、意見等をお願いします。
事務局	できれば今後3年間で各園が主体的に質の向上に取り組めるような雰囲気を作っていきたいと思っておりますが、現時点で様式の変更等は考えていません。
委員長	今後3年間の中で自分の園がどこをどんな風に頑張っていくか等課題を踏まえた目標設定をできるような力が必要です。各園は、課題や目標をきっともっているでしょうからそれを文章化・言語化できるようなサポートを行うのが大事だと思います。資料5の報告書を受けて、各園が次年度はどんな目標設定をするのかを記入する欄を作るとか、意見を聴取する機会をもつということが必要なのかと思います。事務局で提案はありますか。
事務局	検討していきたいと思っております。
委員長	次に各委員の自己評価報告書作成・提出等の日程は、事務局からの提案に合わせますのでお願いします。
	(4) その他 事務局から説明をお願いします。
事務局	・資料7 令和4年度のスケジュール（案）
委員長	訪問の順番とどの委員がどの園を訪問するかということですが、私は3つの案どれでも大丈夫です。事務局が複数案を考えた中で、一番いいと思うのはどうですか。

事務局	(公開保育と瀧川先生の視察訪問が同年の)案2か案3のどちらかになればと思います。公開保育の園はとても不安に思われるので、視察訪問でも話ができるのは貴重だと考えています。
委員長	案2と案3では、案3の方がクラス数のバランスがいいので案3でいかがでしょうか。
各委員	了承します。
委員長	ではそれをお願いします。 以上で本日予定していた協議事項を終了します。委員には円滑な運営に協力いただきありがとうございました。
事務局	4 次回開催予定 次回の会議は、4月18日(月)午後3時から予定しています。視察訪問の希望調査の結果や各園からの意見を踏まえた事業の方向などについて協議をいただきたいと考えています。 閉会の前に教育部長よりご挨拶申し上げます。
部長	あいさつ
事務局	5 閉会 以上をもって、本日の会議を終了します。